

2026 年度 一般社団法人日本生活支援工学会 研究デザイン講座

『福祉用具実証試験の研究デザイン』

— 福祉用具のエビデンス —

主催：一般社団法人日本生活支援工学会
後援：公益財団法人テクノエイド協会
後援：一般社団法人日本福祉用具生活支援用具協会（JASPA）
後援：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）
日時：2026年6月27日（土）13:30～17:00
開催形態：ZoomによるWeb会議
講師：山内 繁（一般社団法人日本生活支援工学会倫理審査委員会）

元 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所長

元 早稲田大学 人を対象とする研究に関する倫理委員会 委員長

「エンジニアのための 人を対象とする研究計画入門（丸善出版）」著者

申込：<https://forms.cloud.microsoft/r/DU9C9QNMzU> から申込ください。

（2026年6月9日締め切り）

参加費：5,000円（日本生活支援工学会会員、賛助会員。賛助会員は1社3名迄）

10,000円（非会員）



「福祉用具のエビデンス」が問題になってきました。このことは、1990年代にカナダで始まったEBM（Evidence Based Medicine：根拠に基づいた医療）の福祉用具への波及効果と考えられます。アメリカでは2005年くらいから福祉用具の世界でもEBMが一般的になっていました。わが国でも、介護保険福祉用具貸与の新規品目の申請にエビデンスデータが求められるようになってきました。EBMの立場から妥当性のあるエビデンスを得るためにはしっかりした研究デザインに基づかななくてはなりません。

一般社団法人日本生活支援工学会では、2010年に倫理審査委員会を設置し、企業で開発された支援機器の実証試験のための倫理審査を行ってきました。倫理審査では、研究計画の「倫理的妥当性」および「科学的合理性」が求められます。これらの経験に基づき、科学的合理性のための「エビデンスの高い研究デザイン」および「易しい統計学的データ処理」を目指した講座を計画しました。

• 主な項目

- 実証試験のための研究デザインとPICO、アウトカムとエンドポイント
- 対応する統計モデルと統計学的仮説検証
- 統計パッケージEZRの利用によるサンプルサイズの設計と測定データの処理
- サンプルサイズが増やしにくい場合の対策と、パワーの計算による妥当性の検討

内容等問い合わせ先：

Res.Design@jswsat.org 日本生活支援工学会研究デザインWG

※アドレスは@を半角に変更し、件名に、「研究デザイン講座問い合わせ」と記載してお送りください。

※ZoomのURLについては追って事務局から連絡します。

関連Webページ：

日本生活支援工学会 倫理審査受託事業 <https://www.jswsat.org/irb/>